



# Via Latina 22

2021年5月 300号

## 総本部よりのお知らせ－マリア会

### 国際神学校への年毎の訪問（年次訪問）

シャミナード国際神学校への教会法上の訪問は毎年行われます。総長評議員会メンバー1名と行政単位の責任者1名で構成された委員会によってこの訪問が遂行されます。今年は2021年4月7日－10日の期間で行われました。今年の2名の訪問者はスペイン管区、管区長Iñaki Sarasua師と霊生局長Pablo Rambaud師でした。

昨年同様、神学校への訪問はCOVID-19感染症拡大で生じた困難な事態による特別な環境の中で行われました。訪問期間中、2名の訪問者は神学校共同体に歓迎され、その日程に沿って共同体メンバーと共に食事をとり祈りを行います。今年は復活祭休暇中に訪問が成されたので、訪問者とのインタビューや対話のための神学生の時間に余裕が出来ました。この期間に、神学校と総本部の両共同体は食事を共に分かち合いました。



（中央）スペイン管区管区長Iñaki Sarasua師と霊生局長Pablo Rambaud師

この委員会のメンバーは個々の神学生と養成者チームメンバーとの話し合いに時間を割きました。訪問者は暖かい歓迎を受け、そして彼らの共同体の多くの側面に感銘を受けました。例えばマリアニスト的で専門的な養成プログラム、神学校共同体の兄弟的な力強さです。今年の訪問は、この共同体が2020年訪問時に成されたコメントや提言を考慮に入れた説明方法に注目しました。更に、訪問チームは神学校生活の優れた点と種々の課題に十分留意しました。

この訪問の終わりに、委員会は神学校共同体全体に報告書の内容を知らせる前に、総長評議員会とそれについて分かち合い、彼らと自分たちが気づいたことを分かち合い、将来に向けての提言を行いました。公式報告書は書面でマリア会の全行政単位の責任者に送付されました。

---

## メリバ管区とスペイン管区での任命

総長評議員会は、2021年4月23日の会議でメリバとスペイン両管区で数週間前に行われた意見聴取の結果を吟味した後、2つの任命を行いました。



Thomas Cardone師が2021年6月1日から始る第2期3年間のメリバ管区副管区長として任命されました。管区メンバーと総長評議員会は彼の第1期在任中に成された任務を高く評価しています。Thomas師はこの任命を快く引き受けました。

Miguel Ángel Dieste士は2021年8月15日から始る第2期3年間のスペイン管区の副管区長として再任されました。彼は教育部長の任務も継続します。意見聴取での管区メンバーから得た彼への支持は大変幅広く、総長評議員会は彼の寛容な承諾に感謝します。



---

## フランス管区での新たな任命

2021年4月3日、フランス管区長は彼の権限で2つのアフリカ行政単位のトップの新たな任命を行いました。

コンゴ特別地区にて：Romuald N'Lumbu Mfunu師はコンゴ民主共和国出身で現在、コンゴ共和国、ブラザビル ムコンドの聖リタ小教区の助任司祭を勤めており、任期が終了するDenis Shamashanga士の後任として調整役に任命されます。





コートジボワール従属地区では：Noël Dominique Kouao師は現在イタリア、ローマでの修学コースを終了しますが、やはり任期が終了するGeorges Gbeze Kouame師の後任に従属地区長として任命されます。

両名共2021年8月に彼らの任期が始まります。

## 世界的な教育協定の構築

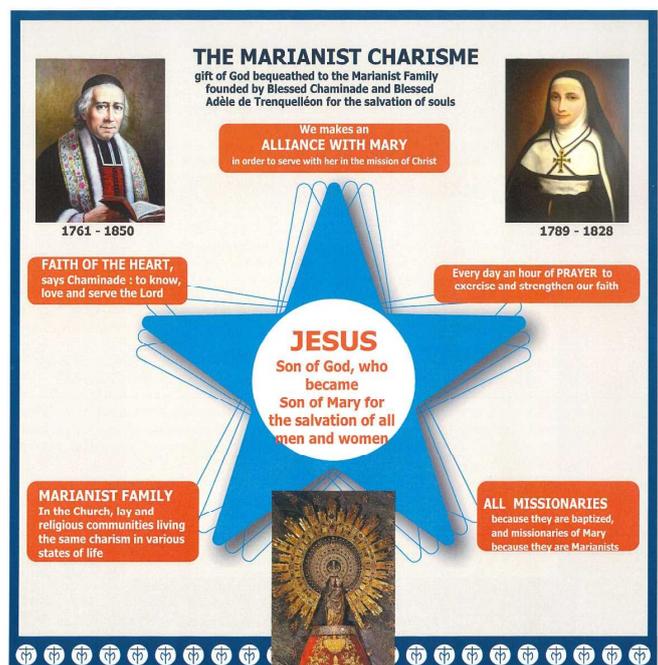


GLOBAL COMPACT  
ON EDUCATION

世界的な教育協定は進められています。2020年10月15日の実効的スタートに続いて、この協定を実現させる上で世界のカトリック教育機関を活性化し支援するために、行程表が総長連合会 (UISG/USG) とカトリック教育国際機構 (OIEC) によって作成されました。

5つの行動内容を含む行程表は、ローカルレベルの各事業体と組織からスタートして、切れ目なくこの協定構築に入っていくために、私たちが作業することを推奨しています。特別な指針がこの目的のための段階毎の導きを提供します。これら全ての行動を支持する法王庁教育省は、自ら *Vademecum* (説明書) の起草に取り掛かっており、それはこの協定の7つの約束についての幅広い理解と適用に到るよう手助けをすることになります。これからの数週、数ヶ月間にマリア会行政単位の教育部長と協議して、これら全ての問題が現実的な方法で私たちのすべての事業体と組織レベルに提示されるはずです。

## 欧州ゾーン — マリアニストカリスマに関する諸活動



マリアニスト研究ヨーロッパセンターは3つの拠点から成ります；イタリア、ローマ：AGMAR(責任者、Antonio Gascon師)、スペイン、サラゴサ：(責任者、Rafa Iglesias師とEnrique Aguilera師)、フランス、ボルドー：(責任者、Robert Witwicki師)。コートジボワールのアビジャンにあるセンターはボルドーのセンターと協調している。

これらに加えて、CEM(ヨーロッパマリアニスト協議会)は私たちのカリスマの研究に努める「専門家」グループの養成を奨励してききました。メンバー10名程度のこのグループは2019年11月5日にサラゴサで形成され、GERME(ヨーロッパマリアニスト研究開発グループ)と呼ばれています。その時以来、感染症拡大がこのグループの年ごとの会議開催を阻んできました。しかしながら、このグループは2020年10月と2021年4月に、2度のビデオ会議を行うことが出来ました。

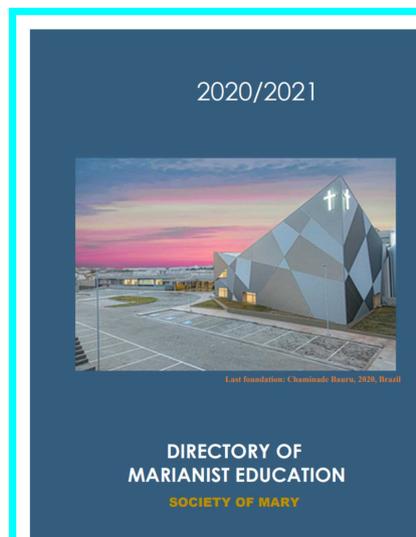
より詳しいことは [www.marianist.org](http://www.marianist.org) のMARIANIST CHARISM

MORE INFO

## 2020/2021 マリア会教育事業の統計

COVID-19と、それが日常ベースで私たちに負わせている制限と困難さにもかかわらず、私たちの教育施設の活動は進捗しています。私たちはこれらに係る皆さんに心からお祝い申し上げます。これら素晴らしい事柄を可能にしていることを皆さんに感謝します。今年の非常に複雑なCOVID-19状況によって、私たちは教育活動に関する統計を発表することが出来ませんでした。しかしながら、情報収集が再び確実なものとなり始めています。皆さんに2020-2021学年度のマリア会の正規教育事業に関する統計データの要約を提供出来ます。

いつものように、皆さんは [www.marianist.org](http://www.marianist.org) からマリアニスト教育要覧の完全なpdfバージョンをダウンロードして更に詳細な情報を得ることが出来ます。このpdfバージョンは比較的公的なもので個々の個人情報には公にしません。各機関の連絡担当者は例外です。もし必要なら行政単位の教育部長が要覧の全部のデータにアクセス出来るガイドラインを知っています。



行政単位	学校数	生徒数	教員数	マリア会 教員数	管理職	修道者数
アルゼンチン	5	6714	844	6	25	6
チリ	6	6082	300	2	188	10
コロンビア・エクアドル	2	3201	191	7	11	12
東アフリカ	9	4120	222	20	36	37
スペイン	18	23024	1590	18	138	64
フランス	10	11370	783	9	412	27
コートジボワール	2	2777	124	8	23	11
イタリア	1	678	70	0	3	6
日本	4	6753	485	1	63	10
韓国	1	538	46	1	5	4
メリバ	3	4706	272	25	33	31
オーストリア	3	2468	227	0	24	3
ペルー	4	5571	409	0	80	5
トーゴ	3	1426	108	23	21	23
米国（大学以外）	17	10956	912	8	384	27
米国（大学）	3	17394	1075	12	617	35
米国（合計）	20	28350	1987	20	1001	62
インド	7	2944	138	30	18	31
<b>SM 総計</b>	<b>98</b>	<b>110722</b>	<b>7796</b>	<b>170</b>	<b>2082</b>	<b>342</b>

注記：

- 2019年に前回の統計が発表されてからアルゼンチン、ブラジルそしてマラウイで3つの学校が開校しました。しかしインドとコロンビアで2校を閉鎖しなければなりませんでした。2018/2019に比べ1学校が増加となり、よって全体数は98に増えます。
- 現行の98の教育施設は次のような特徴を持っています。

\* 16校は男子生徒のみ、1校(東アフリカ地区)が女子生徒のみです。

\* 81校が男女共学です。

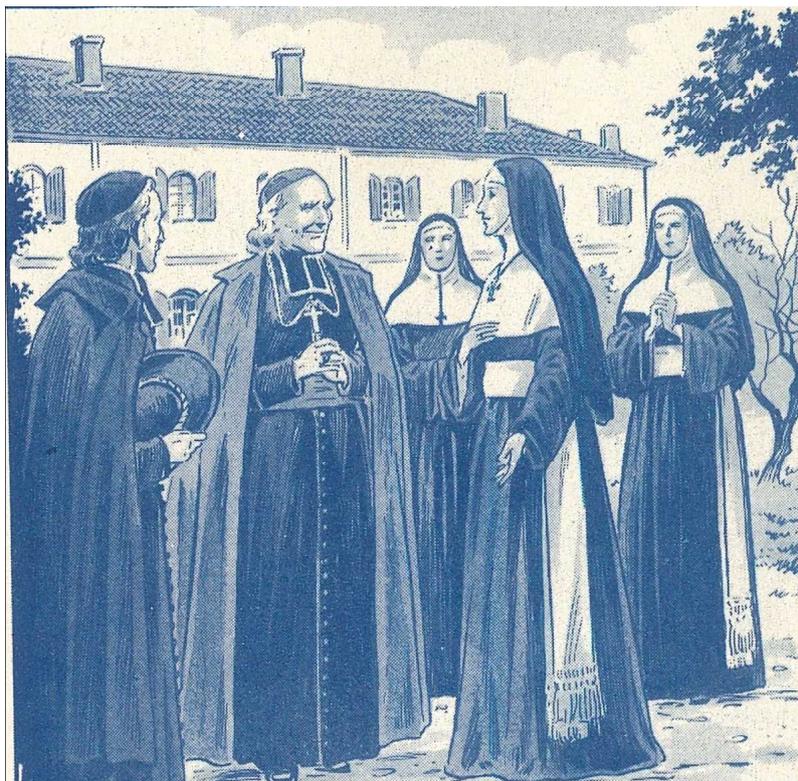
\* 40校では幼児教育（保育園と幼稚園）も行っています。

\* 54校では小学校教育が行われています。

- \* 86校では中等教育（中学校、高等学校）が行われています。
- \* 3校では技術養成が行われています。
- \* 大学数は3校です。
- \* 25校が寄宿制度を採用しています。

3. 教鞭に立つマリア会修道者の全体数は2年前の205名から170名となり35名減少しています。

## 聖性への道のり



アジャンの司教、ジャクピー司教（中央）は  
シャミナード師とメル・アデルを祝福した

私たちはマリアニスト聖人たちをどの様に祝い、また私たちの聖性への召し出しにおいてどの様に成長しているのでしょうか？ マリアにとってお告げは内発的にまた熱意に満ちてエリザベト訪問へと導きましたが、総長回章第2号は、私たちがこのマリアを注視して私たちの召命の道を歩み続けるのを助けてくれます。歩くことについてのイメージはこの回章の内容を良く説明しています。総長は次の様に指摘します：《イエス自身多く歩きました》、そして次のように付け加えます、《私たちは、常に私たちの傍におられる私たちの神、イエス・キリストの弟子です》。私たちが《決して死なない人》になるというシャミナード神父の願いは、実際には、マリアの「はい」を模倣したいとの願いに励まされて、旅の途上にある人の願いです。このことを創立者の他の文章で思い起こしましょう：《もし良き主が私たちをそこにお召しになるなら、私たちは世界の果てまで行かねばならないでしょう》。

福者メール・アデルもシスターたちに同じようなかたちで語っています：《私たちはキリストの宣教活動をするために・・・喜んで世界の果てまで行きます》。ある諺では次のようにさえ言われています：《歩くことに慣れている人は、もし座ると疲れてしまう》と。ですから私たちの歩みを続けましょう、《マリアは私たちを訪ね、また全人類を訪ねるのを決して止められない》といことは確かです。

この歩みは、マリアニスト家族の中で、またマリアのマグニフィカト（賛歌）を聞きながら行われるのですから、旅の疲れにもかかわらず、喜びとお祝いの中で行われることになります。そしてこの歩みは、マリアニスト福者たちの宣言される聖性に特別なかたちで貢献することになるでしょう。

---

## 祈りの要請



COVID-19ウイルスで苦しんでいる兄弟姉妹たちのために祈りが要請されています。特に、インドのSMとFMIの会員たちのためのお祈りをお願いします。SMはPaulus Lakra士を最近失ったことで苦しんでおり、また男女二つの従属地区はまだ感染症の深刻な影響で苦しんでいます。彼らの上長であるSudhir師とSister Tere、及び、他の修道者のためにもお祈り下さい。さらにJavier Nugent師(PE)のことを忘れないでください、彼はリマで入院していてそこでウイルスと闘っています。パンデミックの結果として、死別や困難さで苦しみ続けている全ての人を忘れないようにしましょう。福者シャミナードの取り成しを通して彼らが慰め、癒し、そして回復を得られますように！

腕疾患の病人、Ms. マリアの治癒のため、尊者Faustino Pérez-Manglano（Sodality会員）へのノバナの祈り。これはフランス管区のHervé Guillo du Bodan士とDominique Michel士から要請された祈りの意向です。

### 総指導者会議と新興行政単位の上長会議の延期

COVID-19感染症拡大の理由で、総長評議員会は総指導者会議と新興行政単位の上長会議の1年延期を決定しました。

以前に2021年7月と決めたこの2つの会議は行われず、1年後2022年7月に延期となります。

詳しい情報は関係者に送付されました。

## 最近の総本部通信

- 訃報：6号～9号
- 4月7日：総指導者会議と新興行政単位の上長会議の延長、総長André-Joseph Fétis師から3か国語で行政単位責任者宛に送付。
- 4月8日：回章第2号 - マリアは立ち上がりそして急いで里山に向かった（ルカ1, 39） - 賛美と奉仕の道でマリアに導かれて、総長André-Joseph Fétis師から3か国語で全マリア会員に送付。
- 4月21日：管区・地区会議のガイダンス資料 - COVID-19期間の会議遂行のための特別規範、総長André-Joseph Fétis師から3か国語で行政単位責任者とゾーン会議議長宛てに送付。
- 4月30日：シャミナード国際神学校への訪問報告、霊生局長Pablo Rambaud師から3か国語で行政単位責任者に送付。